

川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）平成21年度第1回理事会

- 1 日時 平成21年7月21日（火） 15:00～16:00
- 2 場所 川崎市役所第3庁舎18階大会議室
- 3 出席者 足立芳寛（NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター）、村田千春（川崎工業振興倶楽部）、原徹（かわさき地球温暖化対策推進協議会）、八木晋郎（川崎信用金庫）、山田長満（川崎商工会議所）、寺尾巖（川崎市工業団体連合会）、丹村洋一（JFEスチール(株)東日本製鉄所）、戸田克敏（(株)東芝浜川崎工場）、杉本富士夫（富士通(株)川崎工場）、鈴木哲（味の素(株)川崎事業所）、小島喜章（東京電力(株)川崎火力発電所）、小林洋武（東京ガス(株)川崎支社）、中館荒樹（東燃ゼネラル石油(株)川崎工場）、尾澤良二（(社)川崎市商店街連合会）、鈴木和彦（川崎市新エネルギー振興協会）、小谷一雄（(社)神奈川県トラック協会）、土田勲（(財)川崎市公園緑地協会）、青木恵美子（川崎市地域女性連絡協議会）、飯田和子（麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員）、岩本孝子（川崎市民共同発電所プロジェクト）、庄司佳子（グリーンコンシューマー普及会議）、吉川智江（慶應義塾大学）、満田高久（学校法人 日本女子大学）、竹中嘉久（(株)川崎フロンターレ）、三浦淳（川崎市総合企画局）、平岡陽一（川崎市経済労働局）、寺岡章二（川崎市環境局）（敬称略）
- 4 出席者数 27名
- 5 議事
 - 基調講演「地球環境を取り巻く現状」足立芳寛会長
 - 議題（1）議事1：平成21年度CC川崎エコ会議事業計画について
（2）議事2：（仮称）川崎市地球温暖化対策条例について
（3）議事3：低CO2川崎ブランドについて
- 6 配布資料
 - 資料1 CC川崎エコ会議設置要綱
 - 資料2-1 CC川崎エコ会議役員一覧
 - 2-2 CC川崎エコ会議理事・アドバイザー名簿
 - 2-3 CC川崎エコ会議会員一覧
 - 資料3 講演資料「地球環境を取り巻く現状」
 - 資料4 平成21年度CC川崎エコ会議事業計画
 - 資料5（仮称）川崎市地球温暖化対策条例について
 - 資料6 低CO2川崎ブランド策定事業について
 - 資料7 CCかわさき環境ミーティング開催結果概要について
- 7 議事内容
 - 配布資料の確認等(事務局)

 - 川崎市長あいさつ
 - ・環境審議会から、6月4日に（仮称）川崎市地球温暖化対策条例について、答申を受け取った。現在、パブリックコメント中である。
 - ・地球温暖化対策には、様々な主体が連携した取り組みが必要である。また、そのため、地球温暖

化防止活動推進センターも検討中である。

- ・今後も、みなさんのご協力と活躍を期待している。

○基調講演「地球環境を取り巻く現状」足立芳寛会長

- ・日本の2020年の中期目標は2005年比で15%減（90年比8%減）が示された。
- ・ポスト京都（G8/MEF2009）では、気温上昇を産業革命前に比べ2度以内とする首脳宣言がなされた。この達成には、先進国全体の排出量を2020年までに、90年度比で25～45%減とする必要がある。産業革命前の地球人口約20億人から、現在は100億人までの人口増加が予想される中での取り組みとなる。
- ・CC川崎エコ会議では、合理的で効果的な新しいCO2削減モデルに取り組みたい。それには、ライフサイクルCO2と再アロケーション、コンビネートCDMが必要である。流通、使用、廃棄での削減効果を、原料採掘、生産にも逆上って適用する考えである。
- ・地域でバランスのとれた使い方、地球への戻し方、それがエコ会議の取り組みである。

○議事

- 1) 平成21年度CC川崎エコ会議事業計画で推進することが了承された。
 - ・カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略（CCかわさき）の推進
 - ・戦略的情報発信
 - ・ネットワークづくり
 - ・その他CC川崎エコ会議が必要と認めること
- 2) (仮称) 川崎市地球温暖化対策条例について
 - ・以下の質疑、意見があり、CC川崎エコ会議としても意見を出していき、制定に向けて、協力していくことが確認された。
 - ・タイムスケジュールは、7月中のパブリックコメント募集、12月に市議会へ提案、来年4月施行としたい。地球温暖化対策に係わる計画は、来年2月に環境審議会から答申予定。
 - ・幅広い市民の意見を吸い上げて、良いものに仕上げていく必要がある。
- 3) 低CO2川崎ブランドについて
 - ・特徴、スケジュール等の説明・質疑応答がなされ、推進していくことが了承された。
 - ・特徴 主に市内で生産された製品等に加え、開発導入された技術等も考慮
最終製品のみでなく、素材・中間での製品も対象
中小企業でも実施可能な簡易な算定方法
 - ・環境にいいことをやっている人、やろうとしている人を褒めようという制度である。
 - ・ライフスタイル全体で、結果的に削減するものである。
 - ・2009～10年度、低CO2川崎ブランド・パイロットブランド試行を実施。
9月に協力企業募集、2010年2月に発表予定。ここ1年で実例を積み上げていく
 - ・国は、カーボンフットプリント制度を構築中。考え方は類似しており、整合性を考慮しつつ、川崎市として特徴を出しながら構築していきたい。先進的な川崎で取り組むことに意義がある。
 - ・みんなで手作り、共有していく。全員参加型お取り組みである。
 - ・市民の活動についても良いモデルを顕彰してしていく。例えば、川崎の風で織ったタオルなども一例である。

4) その他

- ・ CCかわさき環境ミーティング開催結果報告
- ・ 市民共同おひさま発電所1周年イベント（9月5日）の案内と協力依頼。

以上